

## 衆議院議長 挨拶

はじめに、日頃から町村行政の陣頭指揮を執っておられる皆さんに心から敬意を表します。

現在、この著しい人口減少によりまして、過疎地域に指定されている町村は全国941町村のうち、半数以上になっております。国会では本年3月に議員立法によりまして、過疎地域自立促進特別措置法を改正いたしまして、執行期限を延長するとともに、特別措置の内容の充実をしたところでありまして。しかしこの10年で町村の数は2500から1000に減少し、三位一体の改革で地方交付税が大幅にカットされるなど大変厳しい財政状況に加えて、やらなければいけない仕事は減少するどころか増えるばかりであります。また保育、教育、医療、介護などのあらゆるサービスをそれぞれの地域で提供しなければなりませんから、大変なご苦労も多いように思えます。

本年6月には地域主権戦略会議が閣議決定されまして、この改革を通じて市と町村の間で差をつけることなく、町村の意見を十分に踏まえながら自ら住む地域のごことは、地域住民が自らの判断と責任で決める事が出来るようにしなければいけないという思いであります。

最近「無縁社会」ということが問題になりまして、NHKでも随分報道されました。都会では、地縁も血縁も、そして最近では“社縁”と言うようですが一会社に入って共に仕事をしていた一そういうご縁という事ですが、それも希薄になっていきます。しかし、町村の多くは農山漁村地域にあり、みんなが助け合いながら生きていく情緒が根付いている所がございます。そして安全な食料の提供やあるいは自然環境の保全を通じて国民の食生活を支え、また人々の心の拠り所となるなど重要な役割を果たしております。

いまだ地域主権関連三法案が成立しないことは残念でございますが、基礎自治体への権限移譲と一括交付金化も具体的に進めて、町村長の皆さんがひとりひとりの住民に心を配り、魅力ある地域づくりに全力を尽くす事が出来るよう、努力し

て参りたいと決意を新たにしているところでございます。

本大会の成功と皆様の一層のご活躍をお祈りいたしまして一言お祝いのご挨拶といたします。